黒き指揮官様

冬城　一夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
黒き指揮官様

【Ｎコード】
Ｎ２４３１ＢＡ

【作者名】
冬城　一夜

【あらすじ】
友人が異世界トリップして行方不明。そんな事とはしらず、行方不明になる直前の友人から送られた新作ネットゲームの登録サイトに登録しにいってみる。どうせこのゲームに夢中なんだろう？と思いながら。
そして案の定ゲームの登録が完了すると異世界に飛ばされてしまう。いつもどおり女の子キャラを作ったから、女として・・・。

Ｒ－１８で投稿している「銀の戦乙女」の隣国である帝国を舞台にしたお話です。
女の子として異世界に飛ばれた主人公（中身男）のお話です。
やっぱり題名どおりの２つ名がつくかは未定です（笑

小説初心者です。読みにくかったり、誤字脱字も気をつけていますが、多いかもしれません。ご指摘などツッコミあればいれてください。
生暖かい目で見ていただければ幸いです

1話　プロローグーまさかの巻き添え？ー（前書き）

銀の戦乙女にえっちぃなシーンを入れるのが大変なので
冒険シーンだけ書きたいだけかけるはず！と軽いノリで書き始めました。
がんばりますので、生暖かい目で見守っていただけると嬉しいです。

1話　プロローグーまさかの巻き添え？ー

まずは、自己紹介をしようともう。僕の名前は、ティーティアもちろんネットゲームでのハンドル。

親しい連中からはティアと呼ばれている。中身は三十路に足をツッコミかけている、しがないサラリーマン、もちろん男。

ＭＭＯが大好きで、対人戦闘が好きだ。なので今日もゲーム内で戦争に参加し前線で指揮をとっていた。

これでも、そこそこゲーム内では有名で親友のイリーナ（中身は男だ）と並んでギルドの双璧として有名だった。

仕事が忙しくなったイリーナの代わりに戦争に参加していたのだが、戦争中に新作ＭＭＯのβテストに当選したんだとＵＲＬをおくってこられた。

もちろん忙しかったので、あとでみるよとスルーした。

その日から、イリーナがネットに来ない。何かあったのか？と思う。

ちなみにソイツの中身は斉藤　啓二。付き合いも長い親友、悪友ともいえる。

毎日ネットにだけはきて挨拶はしていくアイツがこないとなるとさすがに、気になる。そういえばβテストがとかいっていたな。

アイツはいつもイリーナで登録するから、そのゲームに夢中ならす

ぐにわかるだろう。

チャットログを見つけて、ＵＲＬを開く、砂嵐？いやいや、Ｎｏｔ
　Ｆｏｕｎｄならともかく砂嵐って？

突然画面に現れる。転生者はただ１人。されど唯一無二の例外を認める！と言葉が表示される。

意味がわからないが、演出なのだろうか？無駄に凝っているなとおもい、表示されるままに心理テストのようなアンケートに答えていく。

適度にごまかしながら回答し、ようやくキャラクター設定画面にたどり着く。

キャラクター名はいつもどおりに
ティーティア・シュテルンでいいかな。

ー－種族を選んでください。
うーん、幼女をつくりたいけど、人間幼女だとキャッキャウフフできないし（いやゲームじゃしないけどさ？
ハーフエルフあたりにしておくかな？

ー－性別
かわいいショタっ子というのもいいけど、幼女だよね。かわいいは正義です。
黒髪のストレート、背中にちょっと届くぐらい？
体つきはちっぱいは正義ですっと・・・・、ハーフエルフだからロリババアになるのかな。
瞳の色か、金色と赤？うーん、合わない。金色と碧眼にするかな？

ーー特化魔法選択

得意属性を選ぶのかな？定番物の属性から時空、死霊・・・創造魔法？うーーん、アイツが好きそうだなぁ。

お？渋いのがあるな、

加工魔法

物質を加工し、武器や防具など多彩な物を生産する事が可能な魔法。魔法に熟練することにより生産品の出来なども変わる。

生産職バンザイ！

ーー種族スキルを選択

輝く命の奇跡　スタミナ消費を抑えることができる　オッドアイ

ハーフ故に左右の目の色が違う　魔力＋１　魔術才能　体内の血のせいか、効率よく魔力行使が可能

特性ーキャラクター作成後自動選択されます

さっきのアンケートで決まるっぽいかな？

ーー異世界に旅立つにあたり、この世界へはもどることができません。それでも貴方は行きますか？

凝ってるなぁ・・・・もちろんはい

ーー本当にかまいませんか？

なんだろう、一抹の不安を覚えるんだけど・・・。はい

ーーそれでは、貴方の新しき人生に幸おおからんことを

くらっとする、立ちくらみを起こしたような・・・・そして瞬間的に悟る、これ。ヤバイ・・・・・たぶんこれでイリーナ来なくなった？あぁ、夢だといいな・・・

1話　プロローグーまさかの巻き添え?ー（後書き）

設定などは次の話で必要であろう根幹部分だけいれます。
必要になった設定などは都度いれようとおもいます。

2話　幸運の効果？

賑やかな街を空の上から見下ろしている。古代ローマ風の街並み、街を城壁がぐるっと囲んでいる、外敵がいるのだろうか？

意識ははっきりとしていて、なんとなくイリーナがよくネット小説で読んでいた異世界転生なのだろうと理解してしまっていた。

めんどうな事になったなぁとあまり深くは考えないようにする、心が壊れてしまいそうだから。

これ、知識もなく異世界に放り出されたら野垂れ死にするよね？とか思っていると知識がどこからか流れこんでくる。

銅貨１０枚で銀貨１枚　銀貨２０枚で金貨１枚　金貨２０枚で白金貨１枚。頭の中で銅貨一枚で１００円と思う自分がいる。

そしてこの世界には遺跡と迷宮が存在すること。遺跡はそのまま古代の遺跡、よくあるＲＰＧなどのダンジョンと一緒だ

迷宮というのは魔界から伸びる侵略経路のことで、地下から木の根を逆さまにしたようなモノが地上に伸びていると想像するとわかりやすいかもしれない。

世界に大小ふくめて迷宮の先端が地上に届いて穴があいており、そこから魔族やモンスターがでてくるようだ。

この魔族というのと別に悪魔族というのがあって、インキュバスやサキュバス、ヴァンパイアなんかのどう考えても一般的にいう魔族

なのだが

魔族の中で友好的なが戦争の際に人間側についたので別の名義で呼ばれている。

地上に空いた迷宮の穴は大穴６つあり、過去の戦争や神々の力において封印され、現在大穴は隣国の街の近くにある物１つだけが通行できるようになっている

地上での大きな戦争は２００年ほどに行われたのが最後である。

うーん、技術が追いついているなら、完全体感型のＶＲＭＭＯと言われても納得してしまいそうだった。

しかし、親切なのか残酷なのか微妙な知識だけ教えてくれた・・・・どうしろっていうんだ！

うん？急に身体が引っ張られるように都市近くへと降りていく。

どうやらここがスタート地点、これから僕の物語の始まりになるようだ・・・いやいやいや、常識もなにも理解していないのに？

ふわりっと城壁の外の地面の上に降り立つ。ぺたぺたと身体を触ってみるとキャラメイクした通りの身体であるらしい。

鏡でもあるといいんだけど。

持ち物は・・・・ボロボロのローブ、ボロボロのズボン、ボロボロのシャツ・・・・銀貨３枚・・・・・。

どうしろというんだろうか？なんだこのマゾゲーは！と悪態をついて運営に文句が言いたい、ゲームなら。

イリーナどこに居るんだろう？逢えたらお金とか援助してくれないかな？

死んでるかも生きてるかもわからないし、とりあえずは街へ入って安全の確保とお金稼ぎかな？

加工魔術を選んだから手頃な素材か何かを加工して売ればよいかな？

とりあえず、持ち物は確認した・・・ステータスとかは見えないかな？と思ったら視界の隅？とは違う、意識の隅っこに

よくあるＲＰＧのステータスメニューがみてとれる、あぁ・・・なんか、夢であってほしいと思いながら

冷静に事実を確認し、把握していく。ステータスや魔法などは設定した通りで間違っていない。

途中で頬も抓ってみたけど痛かった、死んだら終わり・・・・だよね？頑張って生きよう。

そういえばキャラ作成のあとに割り振られるっていう特性は

特性：傾国の美女　魅力＋３　国を傾かせるほどの美貌を持つものに与えられる。その魅力は同性、異性を問わない

特性：指導者の極意　カリスマ＋４　他の者を圧倒的に惹きつける、魅力とはまた似て非なるモノ

特性：天使の声　カリスマ＋１　透き通るような美しい声は聞く者

を魅了する。
特性：妖精の指先　器用＋４　細かな作業などをまるで妖精が踊るごとくこなす指先。器用な指先の上級特性
特性：祝福　幸運＋３　如何なる因果か、貴方には幸運が訪れることがある

うーーん、カリスマと美貌？女帝にでも慣れというのだろうか？

ボロボロの身なりのまま、都市の城門へと歩いて行く。

関所のような物があって、鎧をきた兵士がいるのを想像していたのだが、ちがった。元の世界の軍服にしか見えない。

深緑の軍服を着た兵士が関所で荷物のチェックと身分のチェックをしているようだ。

思わず列に並んでしまったけれど、ハーフエルフって大抵は迫害対象であったりするし、そもそもこの身なりで都市にいれてもらえるのだろうか？

しかも、結構コワモテの兵士さんだ。

「次！！」

言われてびくっと肩がすくんでしまう、ちょこちょこと歩いて兵士の前へいくと、名前を聞かれる。

「ぁ、ティーティア・・・です、ティアって言われてます」

怯えたような表情を浮かべて見上げる、設定した通りの外見ならイ

ケル！と打算的な事を考えている。

「怯えさせたようだな、すまない。街へはいるには銀貨2枚の税を納めるか、通行理由が証明できる身分証になるカードを提示する必要がある」

目が合うと、兵士の表情に一瞬哀れみのような感情がみえる、身なりからしても仕方がないことだしね。

よくあるギルドカードとか、そういった類だろう、もってるわけはない、この衣装と銀貨3枚以外なにもないのだ。

「あり・・ません・・・・、お金でいいですか？」

そういってぼろぼろの布袋をひっくり返して銀貨3枚を取り出して、2枚渡そうとする。

「確かに受け取った。必要であるなら中央広場に帝国の役所がある。住民登録や冒険者ギルドへの所属手続きなどもできる。行ってみるといい」

顔とは違い、優しい人のようだ。受け取った振りをして銀貨をもっている手を握り直させてくれた。

なんだろう、他愛もない事のはずなのに、目尻に涙が浮かんだ。

「ありがとうございます」

ちょこんっとお辞儀をして、街へと入っていく。すごい人だ、うーん、視線が低いせいで全然場所がわからない。

中央広場といっていたから、真っすぐ行けばいいかな？

キョロキョロと辺りをみまわし、道の端へでたりして場所を確認しながら歩いて行く。

時折軍服をきた兵士が2人1組で巡回して回っているためか、治安は良いようだ。裏通りなど変なところへいかなければ大丈夫かな？

よく整備された道路を歩いて行くと、広い噴水広場に馬車や行商人が行き交っている。役所・・・あれかな？

石造りの立派な建物、城門にあった紋章と同じ三日月と獅子紋章が描かれた真紅の旗が立てられている。

恐る恐るといった感じでドアを開ける、受付らしき窓口までいくと事務服を来た女性に声をかけられる

「なにかごようでしょうか？」

「ぁ、えっと、街を入るときにここにくれば、色々登録をしてもらえるって聞いてきました・・・・」

「わかりました、都市の住民登録、冒険者ギルドの登録、孤児院への受け入れ登録などもできますが」

この格好だ、孤児院へはいるのかと思われたのだろうが・・・・さすがにそれはちょっといやだ。

「街で商売、露店などをしたいんですけど・・・・・」

「ぇ・・・？そう・・・ですか？？ちょっとお待ちください」

どうしようか？と思案しているようである、身なりもぼろぼろな子供が商売がしたいというのだ、悩むだろうなぁ。

「そうだ、ちょっとリュシカ！リュカ！またさぼってるんでしょ？！」

何かを思いついたのか受付の人が名前を呼ぶと、さらっとした長い金髪を後ろで束ねた白い軍服を着込んだキリっとした印象の美女がこちらへむかってくる

「なによぉ、人聞き悪いわね。書類仕事を終えてお昼を一緒にたべようと思ってきただけじゃない」

「貴方見合いの話がうっとしいとかいってたわよね？！この子の後見人するのはどう？遠縁だとかなんとかで、それならもっともらしく断れるでしょ」

「えぇ？ちょっと、いくらなんでも・・・いえ、けど・・・それも」

「それにこの子、かわいいわよ？孤児院で楽するんじゃなくて露店でもいいから商売したいなんていうのよ？助けてあげたいじゃない」

「ぇ・・いえ、けどさすがに、私が面倒をみるなんて！」

なんだろう、僕を放置して僕の処遇がすごい勢いで決定されていってるような気がする、書類書いちゃうからとか、戸籍作成とか物騒な単語も聞こえてくる

「あ、あの！すいません、これでもハーフエルフなので27なのです」

思わずむこうの世界での年齢を答えてしまう。2人の視線がこちらへ釘付けになって、まじまじとみつめられる。というか顔ちかい、近いですよっっ！！

頬を染めて視線を逸らすと顔をリュカさんに掴まれる。

「ぁ、ほんとだ。エルフ耳・・・・・・・・・」

「ぇ？けどもうティーティア13歳って登録しちゃったわよ？しかもリュカの遠縁の親戚、両親は事故により死亡って」

おぉぉぉい、何をしてるんですか、僕なにも同意すらしてないですよ？！

「そっか、じゃぁいいわ。この子は私が面倒みるってことで！」

えええええ？！ノリ軽いですよ？！ねえ？見知らぬ男、いえ外見女ですけど、引き取るとかいいんですか？

「いいわよね？」

ずぃっと顔を寄せられる、石鹸のような匂いがしてドキドキする・・・・うなづくしかなかった。

幸運の効果なんだろうか？

3話　男の尊厳（前書き）

羞恥プレイはご褒美です！！！！（キリッ

3話　男の尊厳

前を歩くリュカさん、ぴっちりとした身体のラインのでる軍服のズボン、形のよいお尻が目の前にある。

あぁ、なんだろう、すごく触りたいです・・・・痴漢の気持ちがわかr・・・＊痴漢は犯罪です

だめだだめだ！今の僕は表面上女・・・うん、耳まで真っ赤な気がするけど、とりあえず落ち着くんだ。

「あ、そだ、えっとティアちゃんだっけ？って・・・私より年上なのよね？」

「ふぇあ！？は、はいっ」

急に振り向かれる、後ろめたいことを考えていたせいか、思わず声をあげて驚いてしまう。

「ちょっと、そんなに驚かなくっていいじゃない。おねーさん傷ついちゃうなぁ。それでさ、一応書類上は年下だしティアちゃんでいいよね？」

にこっと微笑まれる、吸い込まれそうな綺麗な碧の瞳が見つめてくる。

逆らうことができずにこくんっとうなづく

「よしっっ、それじゃぁまずは服と下着よね！！！かわいいの買っ

てから帰ろ？」

むぎゅっと抱きしめられて、髪の毛から石鹸の匂いと、胸の感触と・・・あぁぁ、僕の息子が今は居なくて助かった。

え？息子なんているのかって？、何言ってるんですか、男なら生まれたときから股間にむｓ・・・（ｒｙ

今最後のほうにちらっと聞き捨てならない単語が聞こえたような・・・・可愛い・・・下着？！

「あ、え、ちょっっ、リュシカさんっっ？？！」

ガシッと手を掴まれて引っ張られていく、あぁ、軍人さんなんだなぁと引っ張られる力強さに現実逃避をしていた。

「ぇ・・っと・・・・・・・・」

なにが、どうして！！こうなった！！！！鏡の前は僕は叫びたかった。

身ぐるみを剥がされ、店員さんとリュカさん２人がかりで、あれがいい、これがいいと取っ換え引っ換え下着をつけさせられた。

というか、男なので女物の下着なんて付けたことはないので、綺麗なお姉さん２人に女物の下着をつけさせられるのだ、どんな羞恥プレイだよ。

この業界ではご褒美です！と言いそうな紳士な知り合いが何人か頭に過るけど、居なかったことにした。

「これなんてどう??」

っと、ピンクにフリフリのついた可愛らしい下着をもってくるリュカさん

「こういうまた違ったギャップもよろしいかと思いますよ?」

黒いレースの付いた大人用の下着にしか見えない物を店員さんが持ってくる・・いや、なんでそんなエロイ下着の子供用があるんだよ！この帝国のやつは紳士ばっかなのか！！

「ぁ、いいわね。ティアの白い肌に栄えそう。それなら更にガーターとストッキング付けてみるのはどうかしら?」

「さすがですわ、あとは黄金パターンとして、リボンの付いた可愛らしい薄緑の下着なんかも・・・・」

お母さん、お父さん、僕は男として大事な物を無くしていってる気がします、誰か助けてください。

そんな祈りは天に届くはずもなく、たっぷりと3時間はきせかえ人形としていろんな下着を着せられた。

買ったのは、勝負用?の黒い大人びたレースの下着、ガータベルトにストッキングつき・・・ストッキングはすごく高いらしい。そりゃ・・・なぁ。文化水準が・・・。

ピンク色のフリフリのついた可愛らしい下着と似たようなもの数着。白生地にピンクのリボンのついた下着、同じくリボンのついた可愛らしい薄緑の下着。

「よっし、じゃぁティア！今度は服よ！服は女の戦闘衣装だからね！」

あぁ、神なんてのがいたら、ワクテカしながらこの状況をみているんだろうか、会うことがあったら絶対殴ってやる。

ちなみに、ここだけの話、下になかったんだ。いや、息子さんの話じゃなくって、毛・・・うん、自分の裸に思わず鼻血だしそうだったよ？

服屋についてもリュカさんの暴走はとまらず、大絶賛着せ替え人形なう・・・・orz

「あの・・・リュカさん、ほんとに来て動けたらそれで・・・」

「「だめよ（ですわ）！」」

やっぱり店員さんと同調してユニゾンで返される、もういい、好きにしてください、さっきのランジェリーショップといい、もう諦めました。

途中から何を血迷ったのか、黒髪に合う！とかいわれて、ゴスロリ風のドレスを着せられたり、真っ赤なドレスを着せられ

店員さんが、あぁ良いですわ！！！割引させていただきますので、モデルをしてくださいませと、記憶水晶？写真になるのかな？撮られた。もういっそ一思いに殺せ　ｏｒｚ

結局決まったのは、ふわりとした白にうっすらとピンクの入ったフレアスカートというのだろうか？女物なんてさっぱりわからないが・・・。

それに、白のシャツ、水色のジャケット？上着っていうのかな、服の名称なんてよくわからないが、そんな感じ

ちなみに、店員さんにリュカさんがあれとこれとあのドレスも後で家に届けて欲しいと言っていたのは、気のせいだと思いたい。

「ぁぅ・・・リュカさん・・・落ち着かないです」

足がスースーする、ちょっと動くと下着が見えそうだし、この女性用の下着もすごく違和感満載だ。

男としてもう、なんか・・・・・色々と泣きたい。

「大丈夫よ、可愛いわよ！自信もっていいわよ、攫いたいぐらいだから！」

にこにこと上機嫌とリュカさん、攫いたいってなんですか、攫いた

いって。それって危険度倍増ってことじゃないですか？
僕攫われるんですか？男に攫われてァーー！とかいやですよ、そんな事になったら、世界を滅ぼす魔王として覚醒したりしますよ？
「・・・よくないです」
むっとして少し不機嫌に顔を逸らす。
「あぁ・・・・不機嫌なのもかわいい・・・・・・・」
むくれて頬をふくらませた僕に身悶えるリュカさん。だめだ、この人、はやくなんとかしないと。
「っとここよ、ここ。、ついたわよー？」
おぉ、洋画などでよく見るアパートちっくな建物。大人２人がすれ違える程度の階段を上がって３Ｆへ
「汚いから恥ずかしいんだけどね、さぁ、どうぞ？」
そういって部屋へ・・・と・・・・・うん、リュカさん・・・・世間一般で男がみたら夢を完膚なきまでに壊しそうな程の散らかり具合ですよ？
姉の部屋を見たことがあるので、問題ないのだけど。
そこらじゅうに散らばった服、下着・・・いや、下着ぐらいしまっとこうよ、リュカさん・・・・しかも、結構キワドイのが混じってる。

だめだだめだ、落ち着くんだ・・・・・・こういうときは羊が1匹
羊が2匹・・・ってちがう！

お？奥の部屋に白い騎士鎧と剣の予備だろうか？リュカさんが今腰に下げているのと似たような剣が、この周りだけ綺麗に整頓されて置かれている。

「そこらへん空いてるところ座ってね、夕飯作るから。ってティア？鎧みてるの？」

じっと白い綺麗な鎧を見ているとリュカさんがこちらへきていた。

「ぁ、綺麗だなーとおもって」

そういう僕にリュカさんは嬉しそうにほほえむ

「ふふふ、そうでしょうそうでしょう。この鎧を着たいがためだけに、騎士になって死ぬほど努力したんだから！」

それでいいのか・・・・・・？？

「ティアも騎士になれば、かっこいい鎧が着られるわよ？私の所属している帝国第2白騎士隊の鎧なのよ？」

嬉しそうにしゃべるリュカさん、すごいですねと適当に相槌を打ちながら苦労話を聞かされる、子供にそんな話するなよ。

あぁ・・・・長い・・・・ご飯をたべている間もずっと続いていた。

「お風呂は宿舎までいかないといけないから、明日にするとして、さ寝るわよ？」

いや、寝るってベッド１つですよね？あ、床で寝ろってことですね？わかります。

「なにしてるの？早く横に来なさいよ？」

寝間着姿のリュカさん、ぽんぽんっとベッドの空いてる所に手招きしている。

「ぇ？いえ・・・けどさすがに、同じところで寝るというのは・・・抵抗があるといいますか・・・」

「いいから、いらっしゃい！」

無理やり抱えられベッドに連れて行かれ、抱きつかれて抱き枕よろしくホールドされてしまった。

良い匂いがします、部屋どころかベッドから甘い女の子の匂いがします。心の中で息子がもうだめだ！と言っています。

今からでも遅くない床・・・あれ？寝息が聞こえる。そうですか、どこでも速攻寝れる特技というやつですか・・・・

人生諦めが肝心です、ここまま寝ること・・・寝る・・・

・
・　・
・

・

寝れるか！！！！

なんの拷問ですか、綺麗なおねーさんに薄着で抱きつかれ、肌の感触や胸の感触。ベッドは甘い女の子の匂いに、リュカさんからは石鹸の匂いがするし！

しかも、寝ているはずなのに、僕を抱える腕は動かない、拘束が解けない、なぜだ、なぜなのですか神よ！

ようやく寝付くことができたのは明け方近くになってからだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2431ba/

黒き指揮官様

2012年1月6日18時50分発行